

高幡地域アクションプランの進捗状況等について

高 幡 地 域 本 部

令和3年2月19日（金）

高幡地域アクションプランの進捗状況等

R3.2.19

高幡地域本部

1 地域アクションプランの令和2年度の実施状況（総括）

(1) 総評

全37項目の地域アクションプランについて、実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、各種アドバイザーを派遣するなど個別事業に応じた支援制度の活用により、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいる。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大によるイベントの中止や観光施設の休業による観光客の減少、商談会等の営業活動の中止など地域内の多くの事業者が影響を受けているものの、政府のGoToトラベルや高幡5市町による奥四万十・じも旅キャンペーンの取り組みなどにより、一部の宿泊施設・観光施設では8月以降前年を上回る入込数となっている。依然として新型コロナウイルスの終息は見通せない状況にあるが、各市町においても独自の支援を行うなど、地域経済の維持に向かった取り組みを行っている。

農業分野では、中土佐町において四万十川の豊かな自然条件を活用して生産される大野見米のブランド化を進め、まとまりのある生産・販売体制を構築し、消費者に選ばれる米産地づくりを推進している。

また、四万十町においては、四万十栗のブランド化と関連産業を含めた地域産業クラスターの形成を図るため、栗の生産拡大とともに、平成29年度に新たに整備した加工施設で栗のペースト加工に取り組むとともに、四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培では、次世代園芸団地で栽培されているトマトの病害虫防除対策を確立し、安定生産を図り、次世代団地の経営強化に取り組んでいる。

畜産分野では、四万十町において、地域の生産者が四万十ポークブランド推進協議会を設立し、安心・安全な豚肉を安定的に提供できる体制を再構築し、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す取り組みを進めている。

林業分野では、経営コンサルタントの助言を得ながら、平成29年度に整備した四万十ヒノキ展示・商談施設を活用したヒノキ集成材工場の販売力強化や新商品の開発に取り組んでいる。

水産分野では、須崎市において、養殖マダイの生産者グループと民間事業者、漁協が連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷事業者の販売戦略に左右されにくい販売力の構築に取り組んでいる。

商工業分野では、中土佐町において、地産外商に取り組む町内のグループや事業者等で構成する協議会を設立し、お互いの強みを生かしながら中土佐町全体のブランド力を強化する地産外商に向けた取り組みが始まっている。

観光分野では、四万十町において道の駅とおわと6月にオープンした四万十川ジップラインを四万十町十和地域の体験型観光の拠点として、周辺のアクティビティ施設等と連携を図ることで、交流人口の拡大を目指す取り組みが始まっている。

また、津野町においては、四国カルストエリア一帯のブランド化を行い、知名度を高めることで交流人口の拡大と町内への周遊を促し、津野町全体の活性化を図ろうと天狗荘、せいらんの里のリニューアルの取り組みを進めている。

(2) 具体的な動き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.1 大野見米のブランド化 (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>・おおのみエコロジーファーマーズ</p>	<p>[指標]</p> <p>エコ米販売量</p> <p>出発点 (R元) : 11.3t</p> <p>到達目標 (R2) : 12 t</p> <p>目標 (R5) : 15t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>エコ米販売量 (R2 見込) : 10.7t (対前年度比 : 94.7%)</p> <p>○生産組織の体制充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営活動 (R2 見込) : 総会 1 回、執行委員会 4 回 (予定) <p>○環境保全型栽培技術の確立と栽培面積の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圃場指導等 (R2 見込) : 12 回 <p>○高付加価値米の販路拡大と販路の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米コンクールへの出品 (R2 見込) : 3 人 (3 圃場) ・教育現場との交流活動 : 1 回 (稲刈り体験交流 10/4、20 人) ・新米フェスタ : FM ラジオでの非公開開催 (10/17) <p>※新型コロナウイルス関係で、執行委員会の開催、県立大学との交流活動に伴う計画の協議、田植体験等の活動が先送りとなっていた。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○検査等級や食味値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2 年作ではエコ米の基準 (食味値 80 以上) のクリアができなかった (特に、ヒノヒカリは難しい) ⇒基本的な栽培技術の徹底、併せて穂肥が可能な施肥体系かつ、タンパク含有量に影響しない施用量と収穫期の再考 <p>○生産等拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化等により会員 (生産者) が 5 人に減 (前年△1 人) ⇒知名度の向上 (米コンクール入賞や外部との交流活動等) 及び水稻生産者に対するエコ米栽培への誘導 <p>コンクール結果は入賞を逃したが、過去の成績の中で一番良かった。</p>
<p>■No.2 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大 (梶原町)</p>	<p>[指標]</p> <p>販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1,458 万円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《実施主体》</p> <p>◎・梶原町雉生産組合</p> <p>・梶原町</p>	<p>直近値 (R 元) : 1,659 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 1,600 万円</p> <p>目標 (R5) : 2,200 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>販売額(R2.12月末) : 11,426 千円(対前年同期比 : 85%)</p> <p>○品質の向上と出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟成肉の製造 (R2.6月末) : 30kg ⇒20kg の販売 (12 月末) <p>○販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話や FAX による営業を強化 ・SNS での情報発信 <p>○キジ肉消費向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆすはらフェアへの出店 (9/19、20・10/17、18) ・道の駅みま「四万十川流域フェスタ」出店 (11/8) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業力の強化 ⇒SNS での情報発信をさらに強化する。 ガラを活用した新たな販路の確保、ゆすはらジビエとの連携を強化し、県外の飲食店での販路開拓を目指す ・認知度向上及びブランド力の向上 ⇒梶原町の「小さな拠点ふるさと応援事業」に参加、梶原町の特産品として町ゆかりの方への加工品の送付 ⇒他地域 (いの町、愛媛県鬼北町) と連携した「きじの日」の制定によるきじの認知度向上
<p>■No.3 梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化 (梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)津野山畜産公社</p> <p>・梶原町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1.3 億円</p> <p>直近値 (R 元) : 0.8 億円</p> <p>到達目標 (R2) : 0.9 億円</p> <p>目標 (R5) : 1.9 億円</p> <p>(2) 出荷頭数</p> <p>出発点 (H30) : 92 頭</p> <p>直近値 (R 元) : 75 頭</p> <p>到達目標 (R2) : 94 頭</p> <p>目標 (R5) : 186 頭</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 販売額 (R2. 12 月末) : 6,907 万円 (対前年同期比 : 106%) (2) 出荷頭数 (R2. 12 月末) : 85 頭 (対前年同期比 : 143%) ※子牛の販売頭数の増による</p> <p>○組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 月から管理・事務能力の強化を行うために 2 名の職員を増加 (1 名定年退職補充) ・ 複合経営拠点化へ向けた準備を行っており、他事業の業務にも着手予定 <p>○飼育頭数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出産頭数が計画より増加 ・ R 元計画 120 頭⇒実績 150 頭により全体頭数は計画頭数に近づいている。一方、月齢の偏り現象がおきており、近い将来牛舎内に入れないことが懸念されている。 <p>○梶原町産牛肉の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食における和牛中心のメニュー (梶原町産牛肉 100%ハンバーグ・ビーフシチュー) の提供 (1~3 月 : 各 1 回) ・ (一社)津野山畜産公社職員による中学 3 年生に対する出前授業の実施 (7/15、11/25) <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○津野山畜産公社の経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現場職員だけでは、頭数管理、経営管理が出来ない。 ⇒中山間農業ルネッサンス事業により派遣される経営コンサルタントに指導を頂きながら、畜産公社・町等による経営会議を毎月開催して飼育頭数及び経営状況を確認する。
<p>■No. 4 つの茶販売戦略 (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・ JA 高知県 (高西地区)</p> <p>・ 津野町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 茶製品販売額</p> <p>出発点 (H30) : 3,200 万円 直近値 (R 元) : 2,214 万円 到達目標 (R2) : 2,400 万円 目標 (R5) : 4,000 万円</p> <p>(2) 荒茶販売額</p> <p>出発点 (H30) : 4,039 万円 直近値 (R 元) : 3,883 万円 到達目標 (R2) : 4,318 万円 目標 (R5) : 5,000 万円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 茶製品販売額 (R2. 12 月末) : 1, 116 万円 (対前年同期比 : 53. 8%)</p> <p>(2) 荒茶販売額 (R2. 12 月末) : 2, 495 万円 (対前年同期比 : 65. 6%)</p> <p>※茶製品・荒茶とも新型コロナウイルスの感染拡大による 外商機会及び需要の減少</p> <p>○販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JA と(株)満天の星が連携した通販用ギフトの販売 ・ 茶製品の商品開発 (かぶせ茶パウダーとシェイカーのセット) ・ SNS や新聞記事などを活用したつの茶 PR ・ 町による茶製品の買い上げと宿泊施設等へのサンプル送付 ・ キリンビール連携事業「#津野山ビール時間キャンペーン」ハッシュタグキャンペーンの実施、サニーマーケットでの店頭販売の実施 ・ 出張ツノチャマルシェの実施 ・ 産業振興アドバイザー (課題解決型) の活用による JA の販促見直し <p>○品質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 茶農家への適時摘栽の指導 ・ 茶工場の GAP (生産工程管理) の遵守と農家指導 ・ クリーンルームの HACCP 遵守 <p>○生産の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放棄茶園の調査 ・ 放棄茶園の整備 ・ 地域おこし協力隊の募集 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍における茶製品の外商機会の減少 ⇒町内観光施設、道の駅等での販売強化、SNS、マスコミ等による PR 強化 ・ 茶製品販売体制の強化 ⇒産業振興アドバイザー (課題解決型) からの指導/助言等をもとに、JA の販売計画の見直しおよび「つの茶販売戦略」実施主体 (茶生産組合、JA、(株)満天の星、津野町) の役割分担の見直し ・ 茶園の維持、再生のための担い手の確保

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.5 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト (四万十町)</p> <p>《《実施主体》》</p> <p>◎・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)無手無冠 ・清流栗庵 	<p>⇒地域おこし協力隊の募集、兼業農家の確保</p> <p>[指標]</p> <p>JA 栗集荷量 (西土佐・大正・十和)</p> <p>出発点 (R 元) : 26t</p> <p>到達目標 (R2) : 32t</p> <p>目標 (R5) : 50t</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>JA 栗集荷量 (R2 見込) : 29.2t (対前年度比 : 112%)</p> <p>○生産量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地巡回 (1 月末) : 5 回 ・特選栗園地確認 (1 月末) : 3 回 ・出荷目慣らし会 (1 月末) : 2 回 ・せんだい講習会 (1 月末) : 1 回 ・せんだい隊指導 (1 月末) : 1 回 ・特選栗会議 (1 月末) : 1 回 <p>○施設機械整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ドラマ新加工場起工式 (9/20) ・新一次産業ペースト機械稼働 (9/1~12/26) ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した新工場への菓子製造機器導入による製品の量産及び流通販売体制の確立 (3 月) <p>○ブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十川流域 9 事業者によるオンライン商談サイト「一人商店しまんと」オープン (7/14) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗の生産出荷量の増加 ⇒低樹高栽培に向けたせんだい技術の普及 ・製造過程の一部機械化による原価低減および利益増加 ⇒製造数量や工程を見直し、販売方法や売り先ごとの製造アイテム分類及びターゲットの明確化
<p>■No.6 四万十町畑作振興プロジェクト (四万十町)</p> <p>《《実施主体》》</p> <p>◎・四万十野菜(同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ハマヤ 	<p>[指標]</p> <p>(1) 四万十野菜(同)売上高</p> <p>出発点 (H30) : 8,525 万円</p> <p>直近値 (R 元) : 8,365 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 9,000 万円</p> <p>目標 (R5) : 1.2 億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(2) 四万十野菜(同)雇用者数 出発点 (H28～R 元累計) : 9 人 直近値 (R 元) : 8 人 到達目標 (R2) : 8 人 目標 (R2～R5 累計) : 12 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 四万十野菜(同)売上高 (12 月末) : 9,422 万円 (対前年同期比 : 138%)</p> <p>※(株)ハマヤからの受注増による売り上げ増加</p> <p>(2) 四万十野菜(同)雇用者数(R3.1 月末) : 7 人</p> <p>○こだわり野菜の生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会 (R3.1 月末) : 9 回 ・有機勉強会 (R3.1 月末) : 1 回 ・有機現地検討会 (R3.1 月末) : 1 回 <p>○6 次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 次セミナー実践コース受講 (R3.1 月末) : 6 回 ・商品化 (R3.1 月末) : 2 品目 ・コロナの影響により商談会への参加など外商活動が十分に出来ていない。 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物の生産拡大 ⇒栽培技術向上への支援、有機 JAS 認証取得支援
<p>■No.7 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十ポークブランド推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(農)平野協同畜産 ・(有)渡辺畜産 ・山中畜産 ・(農)四国デュロックファーム 	<p>[指標]</p> <p>(1) (農)四国デュロックファーム 加工品売上高 出発点 (H30) : 9,202 万円 直近値 (R 元) : 1 億 588 万円 到達目標 (R2) : 1.0 億円 目標 (R5) : 1.2 億円</p> <p>(2) (農)平野協同畜産 母豚数 出発点 (H30) : 477 頭 直近値 (R 元) : 492 頭 到達目標 (R2) : 500 頭 目標 (R5) : 500 頭</p> <p>(3) (農)平野協同畜産 出荷頭数 出発点 (H30) : 9,693 頭 直近値 (R 元) : 10,703 頭 到達目標 (R2) : 11,000 頭</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>目標 (R5) : 11,000 頭</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) (農) 四国デュロックファーム加工品売上高 (R2. 12 月末) : 7,798 万円 (対前年同期比 : 101.4%)</p> <p>(2) (農) 平野協同畜産 母豚数 (R2. 12 月末) : 480 頭 (対前年同期比 : 103.7%)</p> <p>(3) (農) 平野協同畜産 出荷頭数 (R2. 12 月末) : 7,876 頭 (対前年同期比 : 100.8%)</p> <p>○四万十ポークブランド推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ポークブランド推進協議会 (7/27, 8/24, 10/6) ・ブランド化に関する協議 (7/21, 7/28, 9/8) ・「四万十ポーク」ブランドロゴ募集開始 (9/1~11/10) ・ロゴマーク審査会 (応募総数 443 点(11/13)) ・JA 高知県 HP にて結果公表(11/29) <p>○(農)四国デュロックファーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談会等 : 35 回 (7~11 月) ・商品開発 : セブンイレブんと共同開発 「四万十ポーク炭火焼井」岡山・四国で期間限定発売 ・増頭のための施設整備に向けた住民説明会 (9/15) ・施設整備用地造成 (伐採) 開始 (11 月) ・脱臭装置付きコンポストの導入 (2 月完成) ・生産性向上のための衛生対策 ・野生動物侵入防止のための防疫対策 <p>○(農)平野協同畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜保健衛生所とのチーム会 (6, 8, 10, 12 月に開催) ・生産性向上のための衛生対策 ・野生動物侵入防止のための防疫対策 <p>○(有)渡辺畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜舎移転予定地の造成 (伐採) 開始 ・増頭のための施設整備に向けた住民説明会 (9/18) ・施設整備用地造成 (伐採) 開始 (11 月) ・生産性向上のための衛生対策 ・野生動物侵入防止のための防疫対策 <p>○山中畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臭気対策資材投入→臭気削減効果 ・生産性向上のための衛生対策 ・野生動物侵入防止のための防疫対策

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(農)四国デュロックファーム <ul style="list-style-type: none"> ・加工・直販所の販売額の増加 ⇒イベントへの出店や営業活動等による販路の拡大及び顧客の確保 ○(農)平野協同畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・出荷頭数の増加 ⇒衛生管理と生産体制のさらなる向上 ○山中畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・環境対策後の地域住民への理解醸成
<p>■No.8 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十とまと(株)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(有)四万十みはら菜園 ・(株)ベストグロウ ・(株)四万十あおぞらファーム ・山本商店 ・民間事業者等 	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (R元) : 5.8 億円</p> <p>到達目標 (R2) : 5.9 億円</p> <p>目標 (R5) : 6.5 億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2) : 5.96 億円 (対前年度比 : 102%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生産の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・ホモプシス茎枯病対策検討会 (6/24) 病害の発生状況の確認及び前年度の取り組みの評価 次年度の取り組みについて検討 ・農業技術センターの新規課題に申請。R3 年度課題として取り上げられる見込み ・病害発生調査 (毎月 1 回) ・養液分析 (毎月 1 回) ○低コスト省力化の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業実証に関する打ち合わせ (4/23) 省力機器等の効果調査における役割の決定 ・省力効果等聞き取り (7/6、8/3、9/10、10/7、11/12) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生産の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・R2 年度 (R元. 8 月～R2. 7 月) の病害発生程度は前年度を下回った (四万十トマト 12.2%→4.2%) が、さらに効果を高めるための次の一手が見つからない ⇒農業技術センターとの連携により、効果の高い防除技術の開発を進める。

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.9 「四万十ヒノキ」をはじめとする地域森林資源の販売促進(中土佐町、四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町森林組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎地区森林組合 ・四万十町 ・中土佐町 ・地元事業者 	<p>[指標]</p> <p>集成材工場の売上高</p> <p>出発点(H30):2億円</p> <p>直近値(R元):2.2億円</p> <p>到達目標(R2):2.02億円</p> <p>目標(R5):3億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>集成材工場の売上高(R2.12月末):128,187千円 (対前年同期比:98%)</p> <p>○大正集成材工場の売上拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営コンサルタント(4/13、5/18、5/25、6/16、7/29、8/18、9/24、10/20、11/20) ・ネットショップ「BASE」による販売を継続 ・保育博2020(11/26~27)に新商品を出展し商談を実施 ・県内外のホームセンターに営業を実施(フタガミ(アシストファーム)での販売のため仕様変更の協議を進めている) ・企画会社との連携で開発した新商品を販売予定 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発 ⇒企画会社との連携による新商品開発継続して取り組む ・営業スキームの構築 ⇒インターネットを活用した販売ツールの拡充
<p>■No.13 津野町森林・林業再生プロジェクト(津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・津野町森林組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)中成 ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>山元貯木場木材取扱量</p> <p>出発点(H30):25,358 m³</p> <p>直近値(R元):33,777 m³</p> <p>到達目標(R2):27,000 m³</p> <p>目標(R5):30,000 m³</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>山元貯木場木材取扱量(R2.12月末):24,000 m³ (対前年同期比:71%)</p> <p>※新型コロナウイルスの影響による出材料の減少</p> <p>○チップの安定供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チップ生産量(R2.12月末):14,000 t (対前年同期比:127%)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナウイルスの影響による原木価格の下落及び出材量の減少（製材の原料不足から価格は持ち直しつつあるが、先行きは不透明である。） ⇒ 出口対策として、今まで取引のある製材業者等に営業活動を行う。 出材を控えていた事業者に対して、価格情報を提供し、出材を促していく。 ・ チップの販売先の確保 ⇒ 大規模バイオマス発電用等燃料用需要への安定供給
<p>■ No. 14 浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大（須崎市）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ・ 土佐鯛工房 ◎ ・ (株)小島水産 ◎ ・ 乙女会 ◎ ・ (株)大東冷蔵 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高知県漁協深浦支所 	<p>[指標]</p> <p>(1) 海援鯛出荷尾数 出発点 (H30) : 6.6 万尾 直近値 (R 元) : 6.2 万尾 到達目標 (R2) : 7 万尾 目標 (R5) : 10 万尾</p> <p>(2) 乙女鯛出荷尾数 出発点 (H30) : 20.3 万尾 直近値 (R 元) : 24.1 万尾 到達目標 (R2) : 22.5 万尾 目標 (R5) : 30 万尾</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 海援鯛出荷尾数 (R2. 12 月末) : 27,566 尾 (対前年同期比 : 59%)</p> <p>(2) 乙女鯛出荷尾数 (R2. 12 月末) : 127,572 尾 (対前年同期比 : 67%)</p> <p>※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により飲食店等が休業したことによる外食需要の減少</p> <p>○ 海援鯛関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者の増加（長期研修生の独立 1 名） ※ R3 年 2 月 予定 <p>○ 乙女鯛関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加工施設の拡張に係る産業振興推進総合支援事業への採択申請 ・ 新たな販売チャンネルの確保（高知かわうそ市場（EC サイト）での販売開始）

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により飲食店等が休業したことから、外食需要が大幅に減少し、出荷尾数及び単価が下落 ⇒早期の取引再開及び新たな販路の拡大に向け、新型コロナウイルスの感染終息後に開催される商談会等へ参加を予定 ⇒需要が増加している加工品を増産を目的とした、加工施設の拡張に着手 (R3.4月着工予定)
<p>■No. 15 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大 (須崎市)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)アースエイド 	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点 (H30) : 5,418 万円</p> <p>直近値 (R元) : 5,915 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 6,000 万円</p> <p>目標 (R5) : 8,000 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高 (R2.12月末) : 12,890 万円 (対前年同期比 : 287.54%)</p> <p>※農林水産省#元気いただきますプロジェクトによるニコニコエール品への参加による販売増</p> <p>○商品の高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉にんにくを活用した加工商品の開発 : 3品 <p>○インターネット等を活用した直接販売の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県販売促進事業費補助金を活用した四万十川流域9事業者によるオンライン商談サイト「一人商店しまんと」への参加 (7/14) ・農林水産省「#元気いただきますプロジェクト」によるニコニコエール品への参加 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス関連の補助事業等を活用し、他社製品とのセット販売等により売上が回復した。今回の利用をリピーターに繋げていけるよう、補助事業等が終了した先のことを踏まえた展開や作付の調整や効率化についての検討が必要。 ⇒全国的な消費動向の把握や比較的所得の低い県内市場への販路拡大のための検討を行う。また、継続した連携によるセット商品の検討を行う。

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 17 大正町市場商店街活性化事業 (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・大正町市場組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町商工会 ・中土佐町 	<p>[指標]</p> <p>チャレンジショップによる新規開業店舗数</p> <p>出発点 (R 元) : 1 店舗 (H29～R 元累計)</p> <p>到達目標 (R2) : 1 店舗</p> <p>目標 (R5) : 2 店舗 (R2～5 累計)</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>チャレンジショップによる新規開業店舗数 : 1 店舗 (R2. 10 月 閉店・卒業)</p> <p>○中土佐町中心商店街等振興協議会における協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会 (12 月末) : 8 回 ・商店街のコロナ対策 (4 月～) ・奥四万十協議会主催「じも旅クーポン」17 店舗加盟 (7 月) ・GoTo キャンペーンの地域共通クーポン 3 店舗加盟 (10～11 月) ・まんま食堂 (福祉食堂) 主催のハロウィンイベント開催 (10 月) ・なかとさ地域応援商品券の販促チラシ作成 (11 月) ・「ぜよびあ」と「大正町市場」にフリーWi-Fi 設置 (11 月) <p>○チャレンジショップ事業による空き店舗対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規店舗の運営へのサポート (4～9 月) ・チャレンジショップ新規開店 (6～10 月) ・SNS による情報発信 (6 月～) ・チャレンジショップ問合せ 1 件 (11 月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じた対応 ⇒「新たな生活様式」に対応した店舗営業 ・チャレンジショップ出展者の募集
<p>■No. 18 中土佐町 SEA プロジェクト (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)SEA プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町 	<p>[指標]</p> <p>年間売上額 (施設全体)</p> <p>出発点 (H30) : 2.8 億円</p> <p>直近値 (R 元) : 2.5 億円</p> <p>到達目標 (R2) : 3.5 億円</p> <p>目標 (R5) : 3.9 億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>売上額（施設全体）（R2.12月末）：1.6億円 （対前年同期比：87.3%）</p> <p>○賑わい創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部運営協議（4～10月）：13回 コロナ対策、POS関連、ふるさと納税出品協議等 ・テナント協議（4～5月）：4回 コロナ対策等 ・マルシェなかとさ出品登録者訪問・ヒアリング （4～6月）：16戸 ・販売促進活動（4～9月） 町内公共施設等への移動販売（コロナ休業期間中ほか） JR四国おもてなし観光列車（久礼駅での物販販売） 季節商品新規登録事業者への営業 ・ブログ、SNS等による町内情報発信（4月～） ・新商品開発：1品（12月 苺ビール） <p>○周辺施設との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周遊促進社会実験の施行に関する協定締結（国土交通省四国地方整備局）（4月） ・道路社会実験における有識者との現地協議（11月） ・道路社会実験の現地実証実験実施（12月） <p>○地産外商の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産外商に関する協議（6～11月 7回） ・インターネット販売等を活用した外商活動（4～12月）外販による売上額：3,215千円 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賑わい創出への展開 ⇒新たな生活様式に対応した店舗営業 新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、道の駅なかとさ全体のイベントの企画・立案を行い、各テナントとの連携強化を図る。 ・地産外商の取り組み ⇒なかとさ do 外商の意見交換会の内容をい踏まえて、今後の事業を検討していく。
<p>■No.19「中土佐のうまいもん食わしちやお」 商品開発プロジェクト（中土佐町）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画・ど久礼もん企業組合 	<p>[指標]</p> <p>(1) 開発する商品数</p> <p>出発点（H30）：年1商品</p> <p>直近値（H28～R元）：3商品</p> <p>到達目標（R2）：1商品</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>目標 (R5) : 年 1 商品</p> <p>(2) 商品売上高</p> <p>出発点 (H30) : 2,242 万円</p> <p>直近値 (R 元) : 1,964 万円</p> <p>到達目標 (R2) : 2,300 万円</p> <p>目標 (R5) : 2,400 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 開発する商品数 (R2. 12 月末) : —</p> <p>※仕入れから製造、仕上げまでの体制構築 (人員不足) の課題があり商品の開発に至っていない</p> <p>(2) 商品売上高 (R2. 12 月末) : 1,082 万円 (対前年同期比 56.3%)</p> <p>※緊急事態宣言期間中などの食堂・店舗休業による影響</p> <p>○中土佐の食文化を使った商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビンチョウマグロを活用した商品開発に向けた検討 (4 月～) <p>○地元や都市部等での販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットショップのリニューアル (5 月) ・新規市場開拓事業 町からの委託 (6 月) ・ふるさと納税ポータルサイト契約 : 新規 2 件 (7 月) ・四万十川流域 9 事業者によるオンライン商談サイト「一人商店しまんと」への参加 (7/14) ・ふるさと納税 中土佐町定期便スタート (11 月～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人員不足 <p>⇒事業全体の整理及び少ない人員で効率的に運営していくための仕組みづくりが必要</p>
<p>■No. 20 「中土佐町地産外商の取り組み」 (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・中土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)SEA プロジェクト ・企画・ど久礼もん企業組合 ・中土佐町商工会 	<p>[指標]</p> <p>なし</p> <p>※なかとさ do 外商連絡協議会 (仮称) を立ち上げ、R2 年度中 (3 月末) に指標・目標を設定する</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>○地産外商に向けた体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかとさ do 外商連絡協議会 (仮称) 立ち上げに向けての打合せ (6 月) ・産業振興アドバイザー (課題一貫支援型) を活用した

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>組織体制づくり (7月～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回「なかとさ do 外商連絡協議会」開催 (7月) ・なかとさ do 外商に関する意見交換会 (11月) ・第2回「なかとさ do 外商連絡協議会」開催(3月予定) <p>R2年度取り組みのまとめと R3年度実施計画(案)策定</p> <p>○地産外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の頑張る人づくり事業費補助金を活用した商工会地域ブランド研究会によるセミナーの開催 (8～10月全4回) ・地域ブランド研究会メンバーとの意見交換会 (8月、9月) ・地産外商について地域ブランド研究会メンバー聞き取り (11月 6事業者) ・地域ブランド研究会を支援する地域おこし協力隊応募あり (10月面接、審査会合格) →R3.5月着任予定 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町の効果的な外商の推進 ⇒「なかとさ do 外商連絡協議会」の開催 ⇒「新商品開発」など個別課題への対応 (産業振興アドバイザー (課題一貫支援型) の活用) ⇒新規町単補助金等の活用による個別事業所支援
<p>■No. 22 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(有)津野町ふるさとセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)満天の星 ・(一財)天狗荘 ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>(1)直販所総販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1.36 億円 直近値 (R元) : 1.28 億円 到達目標 (R2) : 1.37 億円 目標 (R5) : 1.40 億円</p> <p>(2) (株)満天の星売上</p> <p>出発点 (H30) : 2.07 億円 直近値 (R元) : 2.62 億円 到達目標 (R2) : 2.0 億円 目標 (R5) : 2.49 億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)直販所総販売額 (R2.12月末) : 1.12 億円 (対前年同期比 : 111.8%)</p> <p>(2) (株)満天の星売上 (R2.12月末) : 0.47 億円 (対前年同期比 : 69.8%)</p> <p>※新型コロナウイルスの感染拡大による販促機会の減少</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○出荷量の確保と高付加価値農産物の出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業アドバイザーの配置：1名 <p>○津野町産品の外商力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サトイモを活用した商品の開発：3品、販売開始 (12月～) <p>○津野町まるごと総合商社の設立と安定経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商社設立の際に中心となる町内3社の財務分析と新型コロナウイルス感染拡大による影響調査(4月～) ・3社ヒアリング及び役場との情報交換定例会の実施 (4月～) ・直販所出荷販売手数料の半額を町が補填(7月～R3.6月予定) ・商社設立によるメリット・デメリットの比較検討(8月) ・コロナ禍により、各社の安定経営を優先し、商社化の見送りを決定(9月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における販促機会の減少 ⇒消費者ニーズの変化に対応した商品づくりと販路の確保、災害食としても対応できるサトイモ缶詰商品の開発 ⇒町内資源をフル活用した生産・流通・加工販売体制の再構築 ・ふるさとセンターの方向性を見直しと店舗の整理 ⇒R2年度末での瀬戸店の閉鎖を決定 ⇒R3年度にふるさとセンターへの6次産業化サポートセンター(経営コンサルタント)導入に向けた協議 ・コロナ禍における商社化の見送り、3者の安定経営 ⇒町内3者の連携に向けた町主催定例会の実施 ・直販農家等、生産者の維持、確保 ⇒地域おこし協力隊の募集、農業アドバイザーの配置による助言・指導
<p>■No. 23 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川 	<p>[指標]</p> <p>豚まん等販売額</p> <p>出発点(H30)：9,300万円</p> <p>直近値(R元)：9,880万円</p> <p>到達目標(R2)：1.8億円</p> <p>目標(R5)：2.33億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>※地域産業クラスター関連（四万十のうまい豚クラスタープロジェクト）</p>	<p>[取り組み状況]</p> <p>豚まん等販売額（R2.12月末）：8,514万円 （対前年同期比：121.9%）</p> <p>※新加工場稼働に伴う増産による</p> <p>○加工施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新加工場の高知県版 HACCP 第3ステージ認証取得(6月) ・旧加工場の改修（10月完了） ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した新加工場への機器導入による作業効率化（巣ごもり需要への対応）(R3.1月完了) <p>○商品開発と販路開拓：新加工場関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川との定例会（月1回） ・商談会等への参加：2回（10～11月） <p>○地域資源の発掘と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生姜の病害早期発見を目的とした圃場巡回やサンプル採取等 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅の販売額の増加（ネット販売の強化、イベント等） ⇒セミナー受講やアドバイザー派遣など ・旧加工場の衛生管理の強化 ⇒高知県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ・新型コロナウイルス対策と新加工場の作業効率化 ⇒導入機器の活用による職員の接触機会の低減と労働条件の改善および豚まん等増産体制の強化
<p>■No.24 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大（四万十町）</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)ぶらうん 	<p>[指標]</p> <p>加工品売上高</p> <p>出発点（H30）：5,210万円</p> <p>直近値（R元）：6,925万円</p> <p>到達目標（R2）：9,426万円</p> <p>目標（R5）：1.27億円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>加工品売上高（R2.11月末）：4,830万円 （対前年同期比：115.1%）</p> <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発：1品（四万十キッシュ） ※町内食肉加工業者と連携 ・新商品開発に関するセミナー受講等

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>四万十町外商力アップ講座の受講 (7/29)</p> <p>○販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談会等 : 10 回 (7~10 月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品の安定生産及び販売体制の強化 ⇒高知県版 HACCP 第 3 ステージ認証取得 (第 2 ステージの認証は R 元取得済)
<p>■No. 26 高幡地域における広域観光の推進 (高幡地域全域)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・奥四万十観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・中土佐町 ・梶原町 ・津野町 ・四万十町 	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要観光施設入込客数</p> <p>出発点 (H30) : 2,306,990 人</p> <p>直近値 (R 元) : 2,289,259 人</p> <p>到達目標 (R2) : 2,509,928 人</p> <p>目標 (R5) : 2,646,000 人</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数</p> <p>出発点 (H30) : 56,441 人</p> <p>直近値 (R 元) : 57,482 人</p> <p>到達目標 (R2) : 77,359 人</p> <p>目標 (R5) : 64,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 主要観光施設入込客数 (R2. 12 月末) : 1,205,878 人 (対前年同期比 : 65.3%)</p> <p>※新型コロナウイルス及び改装に伴う施設の休館の影響により、前年より減少している。</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数 (R2. 12 月末) : 33,312 人 (対前年同期比 : 67.7%)</p> <p>※新型コロナウイルス及び改装に伴う施設の休館の影響により、前年より減少している。</p> <p>○観光情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光協議会ウェブサイトリニューアル着手 (7/3~) ・愛媛県、県内幡多地域道の駅セールス : 25 箇所 (9/15~18) ・香川県・愛媛県レンタカー会社セールス : 22 箇所 (10/6、10/7) ・中国四国管内の旅行代理店へのパンフレットの郵送 : 34 社 (10/15) <p>○地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・「奥四万十・じも旅キャンペーン」の実施 (8/1～) ・同キャンペーンのクーポン券1万セット完売 (11/6) ・「奥四万十・じも旅スタンプラリー」の実施(10/31～) ・四国デスティネーションキャンペーン 2021 全国販売促進会議出展、エクスカーション (現地視察) 受入対応 (11/10～12) <p>○広域観光組織の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光協議会担当者会 (4/13、8/26、10/2、12/23、1/27) ・新型コロナウイルス感染症対策に係る観光キャンペーン ((奥四万十・じも旅キャンペーン) 担当者会の開催 (6/4、6/18、6/30、7/20) ・土佐の観光創生塾への参加 (6/22、7/6) ・第1回奥四万十観光協議会理事会 (7/10) ・奥四万十観光協議会推進部会 (11/17、2/3) ・観光関係者向けセミナーの開催 インバウンドセミナー (12/2) Google マイビジネスセミナー (12/16) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で主要観光施設入込数、主要宿泊施設宿泊者数はともに前年度と比べ大幅に落ち込んだため、観光産業の活力回復のための取り組みが必要 ⇒8月から実施している「奥四万十・じも旅キャンペーン」のクーポン券が11月で完売した。今後は周遊企画等により利用を促し、奥四万十地域の宿泊施設・観光施設などの入込数や宿泊者数の増加を図る ・魅力ある観光資源の発掘、磨き上げ及び情報発信等 ⇒担当者部会と連動した体験プログラムの精査、磨き上げ、HPの刷新及びHP・SNS更新頻度の向上 ・地域観光に携わる人材の育成 ⇒先進地研修の実施、SNS・Google マイビジネスセミナーやインバウンドセミナーの継続した開催
<p>■No. 27 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化 (須崎市)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 	<p>[指標]</p> <p>交流人口</p> <p>出発点 (H30) : 20,836人</p> <p>直近値 (R元) : 23,433人</p> <p>到達目標 (R2) : 22,000人</p> <p>目標 (R5) : 24,000人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>※地域産業クラスター関連(宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト)</p>	<p>[取り組み状況]</p> <p>交流人口(R2.12月末):3,483人(対前年同期比:16.8%)</p> <p>※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、コモドウラノウチの縮小等による減</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自粛要請等(2/28~5/31) ・臨時休館(4/20~5/10) ・消毒液、仕切り板や検温機器の手配 ・コモドウラノウチの縮小開催判断 <p>内容:海上アスレチックのみ(期間:8/1~31)</p> <p>○大会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すさきOWS2020の開催(10/18) ・感染症対策における管轄保健所及び所管する県スポーツ課との相談協議 <p>○合宿誘致に向けた関係機関との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県スポーツ課や観光コンベンション協会との団体誘致に向けた助成制度等についての協議 ・感染対策を踏まえたうえでの、カヌースプリント日本ナショナルチーム、高知県トライアスロン連合や、愛媛県トライアスロン協会の合宿の実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等の開催判断・開催方法の検討 ⇒県所管課や管轄する保健所と連携した検討を進める ・現在建設中である体験学習施設の活用について関係機関との協議を継続していく。
<p>■No.30「黒潮本陣」を核とした滞在型観光推進(中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・中土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)中土佐町地域振興公社 	<p>[指標]</p> <p>(1)黒潮本陣宿泊者数</p> <p>出発点(H30):10,394人</p> <p>直近値(R元):9,583人</p> <p>到達目標(R2):10,394人</p> <p>目標(R5):11,000人</p> <p>(2)黒潮工房入込数</p> <p>出発点(H30):18,652人</p> <p>直近値(R元):19,571人</p> <p>到達目標(R2):18,652人</p> <p>目標(R5):20,000人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 黒潮本陣宿泊者数 (R2. 12 月末) : 5,748 人 (対前年同期比 : 73.3%)</p> <p>(2) 黒潮工房入込数 (R2. 12 月末) : 11,583 人 (対前年同期比 : 73.4%)</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休業要請等による施設の休業及び利用者の減少</p> <p>○施設リニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮本陣本館改修計画策定委託業務見積依頼 (7 月) ・黒潮本陣コテージ改修設計委託業務見積依頼 (7 月) ・黒潮本陣本館改修計画調査 (10 月) <p>○誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅なかとさ、大正町市場商店街など関連施設との連携強化に向けた協議 (4 月～) ・ブログや SNS による情報発信 (4 月～) ・昼間のレストラン営業開始 (期間限定) (5 月下旬～) ・地場産品 (鰹、ミニトマト) を使ったメニュー開発 (6 月末) : 3 品 ・中心商店街コロナ対策事業協議 (8 月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設リニューアル ⇒「新たな生活様式」に対応した対策を考えながら改修・工事を進めていく ・集客の促進 ⇒新型コロナウイルス感染症拡大のなか、商店や施設等の休業もあり、実際に計画どおり進めることは難しい。計画の見直しを行いながらできることから取り組む。
<p>■No. 32 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町)</p> <p>《実施主体》 ・津野町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要宿泊施設 年間宿泊数 出発点 (H30) : 10,950 人 直近値 (R 元) : 10,822 人 到達目標 (R2) : 7,033 人 目標 (R5) : 14,000 人</p> <p>(2) 主要観光施設 入込者数 出発点 (H30) : 261,094 人 直近値 (R 元) : 258,666 人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>到達目標 (R2) : 238,854 人 目標 (R5) : 300,000 人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 主要宿泊施設 年間宿泊数 (R2.12月末) : 4,214 人 (対前年同期比 : 42.0%)</p> <p>※新型コロナウイルスの感染拡大及び天狗荘の休館による減</p> <p>(2) 主要観光施設 入込者数 (R2.12月末) : 189,942 人 (対前年同期比 : 87.3%)</p> <p>○受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天狗荘への観光コンシェルジュ機能の配置についての検討 <p>○観光商品の造成と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トウクトウク定期周遊・周遊レンタカーの実施 ・牧野植物園と津野町との連携事業の実施 ・田舎寿司づくり体験モニターの実施 ・田舎寿司冷凍商品化の試験 ・集落活動センターを拠点とした民家周遊「縁側 cafe」の造成 <p>○観光拠点整備と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町観光施設等、磨き上げアドバイザーの委託によるせいらの里のソフト、サービス面（コンセプト、食事、料金設定など）の磨き上げの検討及び天狗荘から町内周遊観光のための天狗荘宿泊プランのオプションの検討 ・せいらの里リニューアル実施設計、施設整備 (R3.5月完成予定) ・フォレストアドベンチャー整備・運営事業者の決定、施設整備 (R3.2月完成予定) <p>○情報発信と誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報の実施 (ラジオ、SNS、HP、YouTube ほか) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における入込者数の確保 ⇒新しい生活様式に対応した受入体制の見直し、「奥四十・じも旅キャンペーン」や「津野ぶらチケットキャンペーン」等コロナ対策事業の有効活用 ・津野町観光振興計画に位置づけられた施策への取り組み

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>⇒重点プロジェクト(天狗荘、四万十川源流点)への対応、津野町グルメや全天候型の観光素材、体験メニューの造成、受入体制の整備(観光組織、観光ガイド等の確保・育成)</p> <p>⇒おんぱく手法を活用した津野町体験キャンペーンの実施(R3.3月)</p>
<p>■No. 33 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・津野町</p> <p>・(一財)天狗荘</p>	<p>[指標]</p> <p>(1)天狗荘の年間宿泊数 出発点(H30):7,646人 直近値(R元):7,916人 到達目標(R2):4,645人 目標(R5):11,000人</p> <p>(2)四国カルストの入込者数 出発点(H30):75,012人 直近値(R元):72,022人 到達目標(R2):53,013人 目標(R5):110,000人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1)天狗荘の年間宿泊数(R2.9月末※):2,750人 (対前年同期比:54.5%)</p> <p>※改修工事のためR2.9月末から休館</p> <p>(2)四国カルストの入込者数(R2.12月末):39,179人 (対前年同期比:54.4%)</p> <p>※改修工事に伴う天狗荘休館(R2.9月末～)のため</p> <p>○観光拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天狗荘改修工事への着手(6月) ・天狗荘サービス磨き上げアドバイザーの委託(4月) ・プラネタリウム設備・映像プロポーザル事業者決定(7月) ・天狗荘周辺施設の改修・整備に向けた県との協議、カルスト学習館の設計プロポーザル審査会(11月)、リニューアル検討会への参加(1月) ・津野町と高知県との観光PTの開催(10月) ・新施設の名称公募(10月)、名称決定(11月) <p>○受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保・人材育成 天狗荘従業員雇用のための求人票のハローワーク登録、高知求人ネットへの掲載(5月)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>町内外への求人案内配布 (5月)</p> <p>専門学校等学校訪問 (5月)</p> <p>オンライン相談会の開催 (8月)</p> <p>調理士業界への求人相談 (12月)</p> <p>五藤光学研究所との包括連携協定の締結 (12月)、定例会の実施 (月2回)</p> <p>広域連携のための久万高原町との協議 (12月～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成、研修 マナー研修の実施 (10月～) 県内宿泊施設、レストラン等での実地研修 (10月～) <p>○観光商品の造成と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新メニューの造成 新料理メニュー造成に向けた指導シェフの模索 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアル(R3.6月予定)後のサービス向上のためのソフト面の強化 ⇒コンセプトに合わせた統一感のある内装、備品・調度品の整備、アメニティなどの調達、従業員マナー講座、人材育成 ⇒津野町グルメや全天候型の観光素材、体験メニューの造成 ⇒PR、誘客のための効果的なプロモーションの実施 ⇒町内への波及、周遊促進のための受入体制の整備(観光組織、観光ガイド等の確保・育成) ・調理人等、人材の確保 ⇒調理師の関係機関への求人、愛媛県等調理師学校への求人配布、合同説明会への参加(2月・須崎市)など ⇒R3 星空観察スペシャリスト養成講座(県実施)の天狗荘開催に向けた協議 ・四国カルストエリア全体の広域連携 ⇒周辺自治体(久万高原町、椿原町、西予市)との連携会議の実施 ⇒カルスト学習館等県有施設の整備、道路標識の見直し
<p>■No. 34 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p>	<p>[指標]</p> <p>ホビー館年間入場客数</p> <p>出発点(H30): 2.7万人</p> <p>直近値(R元): 3.4万人</p> <p>到達目標(R2): 5万人</p> <p>目標(R5): 5万人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>[取り組み状況]</p> <p>ホビー館年間入場客数 (R2. 12 月末) : 16,635 名 (対前年同期比 : 59.4%)</p> <p>※4/11~5/31 まで休館</p> <p>※6~12 月は対前年同期比 95.2%であったが、例年約 10,000 人の来客数が見込める 4~5 月が休館となったため。</p> <p>○海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋堂ホビー館改修計画打合せ : 2 回 (5 月、12 月) <p>○ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みイベントの開催 (7/15~8/31) <p>○関係機関との連携した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シマント補完計画の開催 (3/7~) <p>○海洋堂ホビー館四万十オンラインショップ開始 (5/1~)</p> <p>○GoTo イベント割引チケットの販売開始 (11/28~)</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり (滞在時間の延長) ⇒製作体験はコロナの影響で当面中止、安全な体験プログラムの検討 ・ホビー館施設の老朽化等 ⇒新しい生活様式に対応した改修工事の検討 ・集客力のある企画展・町周遊企画 (スタンプラリー) の開催 ⇒シン・海洋堂エヴァンゲリオンフィギュア展の会期延長 (~R3.5 月)
<p>■No. 36 四万十町オアシス風観光交流拠点施設整備事業 (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川 ・地域団体 	<p>[指標]</p> <p>道の駅[※]集客数 ※あぐり窪川、四万十大正、四万十とおわ</p> <p>出発点 (H30) : 43.3 万人</p> <p>直近値 (R 元) : 42.9 万人</p> <p>到達目標 (R2) : 45 万人</p> <p>目標 (R5) : 54 万人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>道の駅集客数 (R2. 12 月末) : 28.1 万人 (対前年同期比 : 81.5%)</p> <p>○観光交流拠点の整備</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想策定 (R2 年度中) ・観光スーパーバイザー招聘へいによる基本構想のベースとなる活用案の検討：2回 (6/17、8/18) ・産業振興推進総合支援事業費補助金 (ステップアップ事業) 活用によるオアシス風観光交流拠点施設基本構想の策定 ・11月中旬に国交省より防災道の駅として認定 →整備予定地に新たな整備の可能性あり <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域への波及効果を生み出す仕組みづくり ⇒町及び関係事業者との協議
<p>■No. 37 ジップラインと道の駅を核とした四万十町 (十和地区) の観光拠点整備事業 (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅四万十とおわ 	<p>[指標]</p> <p>(1) 道の駅「四万十とおわ」入込客数</p> <p>出発点 (H30) : 8.5 万人</p> <p>直近値 (R 元) : 9.3 万人</p> <p>到達目標 (R2) : 9.9 万人</p> <p>目標 (R5) : 12 万人</p> <p>(2) ジップライン利用者数</p> <p>出発点 (H30) : —</p> <p>到達目標 (R2) : 7,200 人</p> <p>目標 (R5) : 1.2 万人</p> <p>(3) ジップライン売上高</p> <p>出発点 (H30) : —</p> <p>到達目標 (R2) : 1,283 万円</p> <p>目標 (R5) : 2200 万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 道の駅「四万十とおわ」入込客数 (R2. 12 月末) : 69,061 人 (対前年同期比 : 89.0%)</p> <p>※4/21～5/6 まで休業</p> <p>(2) ジップライン利用者数 (R2. 12 月末) : 9,180 人 R2 目標達成率 : 127.5%</p> <p>(3) ジップライン売上高 (R2. 12 月末) : 2,172 万円 R2 目標達成率 : 169.2%</p> <p>○道の駅「四万十とおわ」の運営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜売り場の改修 (7～8 月) <p>○四万十川ジップラインの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジップライングラウンドオープン (6/27)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>※当初 5/2 を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により延期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジップライン運営協議 (7/5、9/1、10/19、11/30) ・四万十川ジップライン結婚式 (11/22) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」の入込客数の減少 ⇒ジップラインや周辺観光施設との連携による集客強化 ・十和地域内の観光施設間の連携強化 ⇒研修等補助事業活用の提案

2 令和2年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

取り組み	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No.36 四万十町オアシス風観光交流拠点整備事業 ※ステップアップ事業 10/27 交付決定</p>	<p>(仮称) 四万十町オアシス風観光拠点施設を整備するための基本構想を策定する。</p>	<p>3,000 千円 (1,500 千円)</p>
<p>■四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト事業 ※ステップアップ事業 (トライアル分) 12/23 交付決定</p>	<p>オール高知県産アウトドアサウナ開発事業 (高知県産の薪ストーブの開発テストを行う)。</p>	<p>729 千円 (485 千円)</p>

3 県民参画に向けた取り組み

- ・土佐 MBA など各種講習会の受講周知、地産地消補助事業説明会の開催

4 相談案件：6 件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	4/9、5/11 6/8	食品加工	須崎市内で地元産食材を活用した練り製品開発と加工機械の導入について
2	8/19	食品加工	四万十町内で地元資源を活用した食品加工施設の新工場建設に向けた検討
3	11/16	飲食業	店舗新規出店についての相談
4	11/24	起業相談	地域おこし協力隊2名からの起業相談
5	12/9	商工業	店舗の高台移転とそれに伴う機能の拡充について
6	2/5	食品加工	地域資源を生かした食品加工等の相談

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	R2年度までの取組内容		
高橋	農業	No.13 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト	次世代施設園芸団地で栽培されているトマトの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、加工品の販売促進や輸出の検討を行い、次世代団地の経営強化を図る。	これまでの取組（H28～R元）	次世代施設園芸団地での生果販売向けのトマトの生産拡大に向けた適正な栽培管理を実施した。また、トマトカレーやトマトピューレの開発、販売を行った。	
		関連する地域AP No.8 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト		R2年度の取組	トマトの生産拡大に向けた病虫害対策の確立と適正な栽培管理に特化した取組を実施した。OEM先が製造を中止したことやコストや生産性の面から加工品を製造することを断念した。 【今後の方向性】 新たな品種のトマト生産にもアプローチしており、生産拡大に向けた病虫害対策や適正な栽培管理に継続して取り組む。	
		No.14 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す。	これまでの取組（H28～R元）	既存畜舎の補改修等生産体制の構築に取り組み、平野畜産が四国初の養豚農場 HACCP認証を取得した。また、四万十ポークのブランド化に向けて、関係者でワークショップを開催し、地域団体商標登録を目指す等ブランド化の具体的な方法を決定した。道の駅あぐり窪川では、増産のための豚まん加工場が新設された。	
		関連する地域AP No.7 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト No.23 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備		R2年度の取組	生産拡大に向けて、四国デュークファーム（R3着工予定）と渡辺畜産（R4着工予定）について、畜舎整備に関する住民説明会を行い承諾を得る。また、「四万十ポーク」のブランド化に向けてロゴデザインを募集し、シールとして商品へのブランドマークの貼付を開始した。 【今後の方向性】 増頭に向けた畜舎の整備及び四万十ポークブランドを活用した販路拡大に取り組み収益の向上を目指す。	
		No.15 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト	北幡地域で生産される栗の産地力強化に向け、新改植を進めるとともに、低樹高栽培の普及や労働力補充の仕組みづくり等により生産拡大を図る。また、2次加工施設の整備などを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。	これまでの取組（H28～R元）	生産量の増大に向け、新改植の推進や低樹高剪定技術の普及に取り組んだ。また、十和道の駅の「おちゃりカフェ」での新商品の開発・販売支援を行うとともに、ペースト工場の建設や高品質ペースト機器の導入を支援した。	
		関連する地域AP No.5 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト		R2年度の取組	栗の安定生産に向けた巡回指導等を行った。また、栗を利用した加工品を製造する設備の増強を図る「しまんと地栗工場（仮称）」を建設（R3.3予定） 【今後の方向性】 栗園の管理不足による生産量減少を改善するための剪定指導の強化。新工場での加工品の増産及び高知県版HACCP第3ステージの認証取得を支援	
			新規 No.● くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト	J A 土佐くろしお管内で栽培するミョウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用スキーム、優良種茎の安定供給体制を構築する。また、日本一の「ミョウガ」産地として、一次・二次・三次が連携し、認知度向上に向けた取り組みを推進することにより、ミョウガの消費拡大を目指す。	—	(R3年度新規追加予定)
			関連する地域AP No.1 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト			
	水産業		【再掲】No.11 宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト	うるめいわし、あさり、ブランド真鯛の水産資源を活用した加工業や、ホエールウォッシング、釣り筏などの遊漁、周辺の宿泊施設等が連携してクラスターの形成を図る。	これまでの取組（H28～R元）	アサリ、ウルメイワシ等の生産量等の確保に向け資源保護活動等を実施した。また、地域食材等を活用した加工品及び弁当の開発、体験メニュー設定、磨上げ等を実施した。
			関連する地域AP No.27 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化 No.28 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備		R2年度の取組	新型コロナウイルスの影響により、積極的に観光客の受け入れを進めることが難しかったが、少人数ツアーのまちあるきガイドの受入を行い好評を得た。また、ガイドの研修会の実施やガイドマップの作成など、受入態勢の強化等を行った。 【今後の方向性】須崎市と土佐市の観光協会による体験メニューの磨き上げ、教育旅行や団体旅行の誘致に向けた取り組みの推進